

「悲観と楽観」



私が社会人となった同じ年に、アメリカの社会学者エズラ・ヴォーゲルによる『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が出版されベストセラーになりました。昭和30年代から40年代にかけ高度経済成長をもたらした日本の経営が高く評価されています。その後日本は安定成長を続け、自動車、家電といった安くて品質の高い製品の輸出を拡大させ、バブル経済がはじける平成の初めで経済大国を謳歌します。地価、株価、賃金、人口は右肩上がりしていくものと多くの人が信じていました。

さて現在の日本です。「人口減少」「少子高齢化」「2025年問題」「コロナ禍」…と悲観材料がてんこ盛りです。「このままでは日本は沈没する」「科学技術先進国だと思っていたが、周回遅れだろう」といった声が聞こえてきます。

日本には昔から「災い転じて福となす」といった格言があります。「ピンチはチャンス」もよく使われる言葉です。見る位置・角度・発想を変えてみるにより、ピンチがチャンスに変わった経験が誰にもあるのではないのでしょうか。いいことは長くは続きませんが、悪いこともそう長くは続きません。ほとんどの場合、「なんとかなる」が、私がいままで生きてきた実感です。

人口減少は、その加速を緩める努力は必要ですが、その流れを止めることはできません。それゆえに悲観一色の見方がある一方で、発想・見方を変えると、日本は世界で最も早く人口減少問題から脱出できる国として見ることもできます。その時の日本の人口は、8千万人、いや7千万人となっているかもしれませんが、それで回していく社会の構築を考える時間は十分にあります。

そもそも日本は、国土の7割以上を森林が占め、残りの土地に1億2千万人が暮らしています。「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」昭和の時代に流行ったキャッチコピーです。

G7各国の人口を見ると、日本はアメリカに続き第2位で、ドイツ83百万人、イギリス67百万人、フランス65百万人、イタリア60百万人、カナダ37百万人となっています。

こうして並べてみると、日本の人口は結構多いことが分かります。日本はまだまだやれるのではと少し元気が出てきます。根拠はありませんが、悲観しないことが大切です。

わが社のような中小企業も、人口減少でマーケットが小さくなっていく、人が集まらないと嘆いているばかりでなく、人口減少の中でこそ、生産性を高め、付加価値の高い商品の開発、新しい顧客の開拓など絶対のチャンスと捉えるしたたかさが必要です。AIやロボット、デジタル技術を活用した顧客ニーズへの対応と従業員への新しい働き方の提供が求められています。

石器時代が終わったのは、石がなくなっただけではなく、新しい技術で土器や鉄器がつくられるようになったからです。それが稲作を広め、新しい生活様式と新しい文化を生んでいきました。

新潟は、黄金色に育った稲の収穫を終え、一年で最も豊かな実りの秋を迎えています。もうすぐすると、紅葉がはじまり、やがて冬支度へと季節が移ろっていきます。

今後ともかわらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

弊社顧問 小林 淳



日本の野鳥シリーズ ノスリの狩り

佐藤 弘

ノスリの名の由来を推測するとこれは野擦り、即ち地面に腹を擦りそうな低空飛行で獲物に迫る姿ではないかと思う。同様に、オオタカが堤防斜面の急降下で加速し、地を這うような滑空で90m先のキジを襲う様子を見た。姿が空に映らず背景に紛れ、かつ羽音をたてない低空の滑空には、獲物に接近をさとられない利点がある。そして空気力学の地面効果をうまく利用している。

かつて鳥も飛行機も翼下面の気圧が周囲より高く、上面は低くなる圧力差で空中に浮くと述べた。下面の圧力はスカスカの開放空間より、地面近くの方がより高まるから飛距離が伸びる。そんな様子を見ることは滅多にないが、視点を変えると、映像で見るトビウオが海面ストレスに滑空を続ける姿がまさにそれだ。空気抵抗は流線型の魚体の方が鳥より小さいにしても、軽々と海面に浮く鳥より見掛け比重が大きい魚が、なんの仕掛けもなくただ大きいだけの胸ビレでこれをやるのだから論より証拠、この場合、水面効果の大きさがよくわかる。

本種は少数が留鳥として通年留まるほか、北から越冬の為に渡って来る。これが電柱の上で置物のように動かず、収穫後の田んぼを見わたす姿をよく見かける。獲物を探し回るトビと違い本種は省エネ待ちぶせ型であり、狙いは主にネズミのようだ。そして同大で生息域が同じハシボソガラスが、身の程をわきまえず通りすがりにちよっかい掛ける挑発を適当にあしらっている。

これまでにその狩りを見たのはただ一度だけ。テキは農道を走る私の車の直前で電柱を蹴って発進した。しかし余りにも獲物が近くで、降下角はほぼ30度の急降下になる状況だった。それではスピードが出過ぎて獲物の動きに即応できないうえに、地面に激突するドジを踏みかねない。だがそこは臨機応変、舞うような羽ばたき降下でネズミを仕留めた。姿まる見えで羽音もするだろうに、ネズミは宝の山の落ち穂に夢中だったようだ。

稲刈りに活躍するコンバインはそのまま脱穀までこなす優れものという。しかしその際モミの4%が無駄になるとか。それが全国では総量どれ程か。いつの頃からか、コハクチョウの群が田んぼで採餌する姿が目立つ理由はこれだったのか。もしも製造工程の中で製品にそんなロスが出たら、ものづくりに関わる人ならとても捨て置けない数値だ。門外漢の野次馬は余計なことを言わず黙っていなさいと言われても、口を出さずにいられない勿体ないことだ。

写真で見るとノスリには猛禽独特の精悍さや威圧感がない。その冴えない姿を高貴なルンペンと称した、漫画家バードウォッチャー岩本久則氏の感性に共感する。身は浮浪者にやつれても、心と振る舞いは卑しくはない矜持を漂わせている、ということなのだろう。水前寺清子さんの歌ではないけれど「ぼろは着ても心の錦…」そういうひとに、わたしもなりたい。

お知らせ 好評だったのでおられます。日本の野鳥シリーズノスリが完成いたしました。1連編だけでしたが、次回も好評です。

ちょっと前まではまっていたこと

■【ウィンドサーフィン】

取締役 高橋 典久

50歳頃から10数年、ウィンドサーフィンにはまっていました。まさに年寄りの冷や水です。このスポーツは一度乗れるようになると中毒性があり、思い切りはまる人が多いようです。原因は、風速10m/s位の風を捕らえると時速20~30km位で海面を疾走できることです。

エンジンがないのにボードの後端がゴーという音を立てて、すごい勢いで水面を切り裂きます。体感速度は人によって違うと思いますが、私の場合はその2倍くらいに感じました。西風10m/sで、沼津・牛臥海岸から大瀬崎まで、片道約8kmを30分で往復できました。

もちろん最初から上記のようにはいかず、まずサーファー艇という大きくて重いボードに、これまた重く大きな6㎡のセールを張って、風の弱い日に一年近く練習しました。そして風を捕らえ、その力をコントロールできるようになると、もっと軽く小さなショートボードを使って、風速20m位、波も2m前後(冬場)の条件でも海に出ます。静岡とはいえ真冬はさすがに寒く、私はドライスーツを着ることもありました。(若い仲間には笑われましたが)清水には80歳を過ぎたおじいさんサーファーもいましたが、私は60歳半ばでリタイアしました。

我が家のペット



■【我が家のねこたち】

総務部 田中 和子

我が家には二匹の猫がいます。

三年前、ある方から野良猫のお母さんが事故に遭ってしまい子猫を育ててくれる人を探していると聞き家族と相談し、子猫を飼うことにしました。私の嫁いだ先は猫が好きで飼ってたこともあり、心配なく子猫がやってくるのを子供たちと楽しみにしていました。

子猫がやってきて箱の中を見たら、なんと二匹いました。子猫は生まれたばかりで、お母さん猫がいなく寂しがると一緒に連れてきてくれ、慣れるまで二匹とも置いて行くので一匹は連れて帰って育てますと言われました。掌に乗るくらいの子猫はとても可愛くて二匹を引き離すなんてとてもできないと思い、二匹とも家で責任をもって育てようと決め、我が家に迎えることにしました。

子猫がいるだけで家の中がとても賑やかになりました。

兄弟猫の一匹は、見た目から男らしく食欲旺盛な子。もう一匹は、幸せを引っかけてきてくれるというカギしっぽの抱っこされるのが大好きな子。家族みんなを癒してくれる我が家の大切な可愛い猫たちです。



やっぱり空手は忘れられない

生産部 島貫 修一



コロナに振り回されながらも、オリンピックが無事に終わった。数多い競技の中で関心を持って見ていたのが空手で、その中でも女子の形の決勝戦は対照的な選手の対決だった。私自身が20代の頃に黒帯を締めていたこともあり、審判になったつもりで見ていた。そして私の評価もスペインのサンドラ・サンチェス選手の勝ちだった。

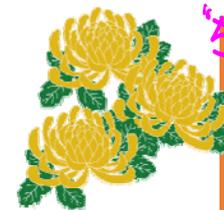
対決した両選手をサムライに例えてみれば、金メダルのサンチェス選手は歴戦の荒武者でその技は豪快で凄みがある。銀メダルの清水希容選手の場合は気鋭の若武者でその技には鋭い切れ味がある。全く性質の異なる両者の対戦だったが、サンチェス選手が気迫で圧倒していると評価した。身長153cmの小柄なサンチェス選手が大きく見える位の迫力があつた。空手は武道であり格闘技であるのだから勝たなくてはならない。多くの勝負を経験した彼女は、日本刀のように鍛錬され研ぎ澄まされており、それが技と表情に表れている。

それにしてもスペインにこんな素晴らしい選手がいたとは知らなかった。柔道は日本の柔道人口よりもフランスの柔道人口が多く、国民に広く普及している。空手も同様で世界中で競技会が開かれており愛好者も多い。30年程前に通っていた英会話スクールの女性講師(国籍は忘れた)も有段者だった。しかし柔道とは異なり次回のオリンピックでは空手は採用されないらしい。だったら空手の世界大会は日本で、それも東京で開いて欲しい。そしてサンチェス選手の形を会場で直接見てその気迫を直に感じたい。

もう一つ、新潟県長岡市に住む13歳の万優(まひろ)ちゃん。彼女は国内の競技会を6年連続で制覇した逸材。世界大会で各国の強豪に挑み堂々と演ずる彼女の形も早く見たい。

◆ちょっと豆知識◆その49「新型コロナウイルスの中和抗体の消長を調べてみた」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)



“ちょっと一息” “コロナのなかで3”

基幹事業サポート 山本知男

「ワクチン打った？」があいさつ代わりに交わされる今日この頃。新潟市は40代の人が現在打ってるくらいの進捗かと思いますが皆さんの街はいかがですか？

私の場合、かかりつけ医が気を遣って基礎疾患枠に入れてくれたおかげで当初の予定よりかなり早く新型コロナウイルスワクチンを打つことができました。

ワクチン接種後、どれくらい経過すると抗体が作られるようになるのか…。理系の血が騒いで自身の新型コロナウイルス中和抗体の消長を市販の検査キットを使って調べてみました。

【被験者情報及び接種経過と検査日】

被験者は日本人男性で50才。

7/14に一回目のワクチン接種。種類はファイザーのもの。副反応は接種部位の痛みが2,3日続いた。8/4に二回目の接種。副反応は一回目と同様に接種部位の痛みと接種翌日の昼過ぎから38℃ほどの発熱(8/6朝には平熱に)。

中和抗体の確認は7/13(一回目前日)、8/2(二回目直前)、8/13(二回目後10日ほど経過)、いずれも検査キットの取説にのっとして実施。

【検査キット】

株東亜産業が販売する新型コロナウイルス中和抗体チェックキット(@2,960+送料¥600 まとめ買い割引あり)を用いた。いわゆるイムノクロマトグラフィー法による検査キットで、血液サンプルを所定の場所に滴下後、展開液を滴下し一定時間経過後シンボルの発現有無によって中和抗体の有無を診断するもの。

販売元は過去に色々やらかしている会社のようなのであるが、使ってみた感じでは製品には特段違和感は覚えなかった。

【検査結果】

反応終了後の検査キットの画像を示す。



7/13(一回目前日)

8/2(二回目直前)

8/13(二回目後10日ほど)

7/13は「T」の部分に反応は見られないが、8/2は薄っすら線が確認できる。8/13にははっきりと線が現れており、ワクチン接種スケジュールの進捗とともに中和抗体が作られていることが示唆された。この手のキットは一般的に定性的であるが、8/2と8/13の結果を見ると、大雑把ではあるが定量性があるのかも知れない。現在有志により追加の確認を行っている。

【終わりに】

現在手元にある情報としては、

- ・70代男性 ファイザー製接種 二回目直前反応出ず 二回目後一週間で反応あり
- ・40代女性 モデルナ製接種 二回目直前で反応あり

n=3 ですので何とも言えない状況ですが、ワクチンのメーカー別、年齢別、性差別等を調べてみても面白いかも知れません。

私はこの後、二回目接種後三か月、六か月を確認してみようと思っていますので、時期を見てご報告したいと思います。

この“ちょっと一息”のエッセイを始めて6年35回目になります。この題目の通り、ちょっと一息ついて、楽に読めるように中味も趣味の音楽やらお客さんの所に出張した際の小話など入れてましたが、コロナのせいで出張は激減、演奏活動も自粛され、今は全くエッセイになるような話題もなく、何を書いたら良いか無い髪を散々掻きむしってる所です。

音楽活動も趣味の吹奏楽や合唱で飛沫が飛び散るとかで制限受けてますが、吹奏楽は合唱さんよりは飛沫飛ばないのですが、ひとまとめに危ないとか言われて演奏活動もこの2年は激減しました。定期演奏会も昨年は無観客で行ないましたが、今年は中止となり、来年こそは・・・、と言う意気込みだけで練習やりましたが、新潟市も特別警報が出され市内の公共施設は閉鎖され、今は練習も何も出来ない状態です。

家で練習しても近所迷惑になるとか言われ、カラオケ屋に行くのも今の時期はちょっとな・・・止めとくか、とか。

ワクチンとか治療薬とかで、何とか今までの日常に早く戻りたいです。という事で、今回はただの愚痴こぼしで終わります。

楽しい話題が書けるような状況になるのを、ただ待つのみです。